

# 名古屋の古道・街道

池田 誠一

## 【20】 柳街道…納屋橋から烏森へ

### 1 近道・短絡道

道の中には近道として開かれたり歩かれたりするようになる道もあります。目的地まで遠回りをしてたのが、近道が出来て歩く人が増え、街道になっていくような場合でしょうか。

名古屋の城下から東海道を京や伊勢に向かう時、主な街道を伝えれば城下の南を出て尾頭から西に佐屋路を進むことになります。しかし城下から直接西に行ければ、3角形の2辺を1辺で済ませることができます。

逆向きにも、佐屋街道から名古屋城下に

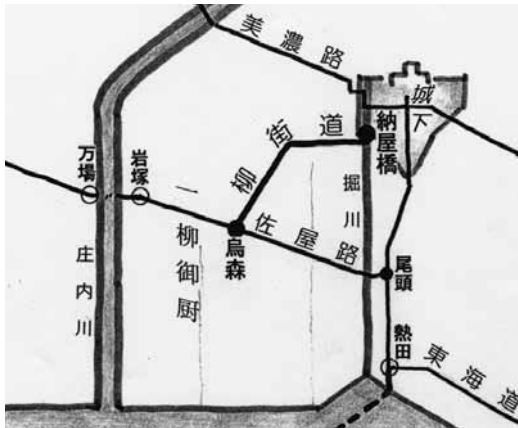


図1 城下と京・伊勢の近道になる柳街道

向かうとき、庄内川を渡り東に進むと左に名古屋城が見えてきます。ところが街道は東南に進むため直接東北に、お城をめがけて進みたいというニーズがありました。こんな要請に応えていた道が今回の「柳街道」です。(図1)

### 2 城下と荘園の村々を結ぶ道 …柳街道

#### (1) 柳街道

柳街道は城下の碁盤割の南端の堀切筋(広小路)を西に行った納屋橋からになります。西に向かって牧野を横切り、上米野を通って西南に向きを変え、高須賀の西から佐屋路の烏森に出るものです。(図2) およそ1里強の道のりでした。

#### (2) 柳街道という名前

この道が柳街道と呼ばれたのはどうしてでしょうか。いくつかの説がありますが、一つは道路の両側に柳を植えたからというものです。信長が江南から犬山への道造った時、道の両側に柳を植えて柳街道と呼んだ例があります。

次は納屋橋から西一帯は昔から柳が多かったからというものです。柳橋など柳を冠した地名

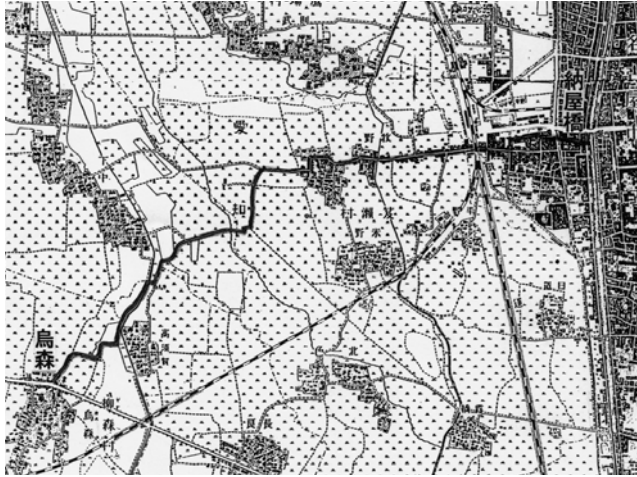


図2 柳街道 烏森と納屋橋(明治24年・一部補正)

や神社がいくつもあります。

しかしよく言われるのは、古くから一柳庄の村々と行き来する道だったという説です。荘園時代、名古屋の西南部には一楊の御厨(みくりや)という伊勢神宮の荘園がありました。今の中村区と中川区の西半分位の範囲になります。(図3) その楊が柳になって使われたというものです。

いずれかは分かりませんが、一つ注意したいのはこの道が昔から「柳街道」と呼ばれていることです。江戸時代では街道という名で呼ばれることは少ないため、誰かが意識的に作ったか、名付けたのではないかと考えられるのです。

### 3 納屋橋から烏森へ

それでは納屋橋から西に歩いてみましょう。



図3 名古屋の荘園の一断面(カゲの部分)が現在の名古屋市



納屋橋の南の道を西へ

曲がりくねっているので追いかけるのが大変です。

堀川の西岸の1本南の道を右にビルとの間の細い道に入ります。広小路のすぐ裏の道には残念ながら街道の面影は望めません。それでも少し行った左手のろうそく屋には明治初期の建物が残ります。道はすぐ広い柳橋の通に出ます。少し左に行った所に白龍神社があります。この通には昔、江川という用水が流れていました。神社は街道の北にあったイチヨウの木にのり移った白竜さまを奉ったものといひます。街道は交差点に迂回して西に進みます。この辺りは駅前に近いせいかまさにビルの谷間です。突当りを左に、次の角を回るとすぐ、ビルの中に小さな神社があります。柳里神社で元はもうすこし西にありました。昔柳が多かったことを示しているようです。一息ついて進むと駅前の通に出ます。

ここも交差点に迂回して1本南の道に入ると、前に何本かの高架橋が目に入ります。明治になって東海道線が出来た後、道は線路の上を渡る明治橋になりました。そして昭和12年線路が高架になって道は平面に戻りました。高架橋をく



ビルの谷間の柳里神社



名古屋駅への線路群

ぐると牧野に入ります。

\*

街道はまっすぐ西に伸びています。その道が少しカーブする所に昔**笠瀨川**が流れていました。伊勢神宮の御札が流れてきたとかで御伊勢川と呼ばれたといひます。角には河童の像があり、その西には**須佐之男社**があります。また西南に少し行った所には**弁天の厳島神社**があります。

街道は昔の牧野村に入り、くねくねと曲がり始めます。Y字路に出るのでそれを左に進むと上米野に入ります。街道の面影を残す家がいくつかありますが使われていないようなのが心配です。街道は突き当たって左に曲がり、すぐ西に曲がって少し行くと広い幹線道路に出ます。

右手の歩道橋を渡って西に進み1本目を左に行きます。真直ぐ西に行く道は戸田への道です。城下からここまでは戸田道とも呼ばれていたようです。南に行く旧道は現在の道よりも西側を通っていたようでそのまま住宅地の中を通り、バス通を越えて黄金中学の中に入ります。



古い家が残る上米野の街道



戸田道との分岐

道は黄金中学の体育館の西に出て西南西に進みます。現在の道路とは微妙に違う所もありますが、ほぼ今の細い斜めの道に沿っています。名西通を越えて少し南に向きを変え、右に曲がると庄内用水の**中井筋**に出ます。今では地下化されて遊歩道になっています。街道は川を渡って西側を南に進みます。

\*

高速道路の通を左の歩道橋に迂回するとその南側の**願成寺**とその**薬師堂**があります。732年、行基の開基とされる天台宗の古い寺です。縁起によると聖武天皇が行基に子供(後の孝謙天皇)の眼病を祈願させて平癒しました。そのため2天皇の勅願寺とされ、寺も願成就寺とされ、坊堂塔が整備されました。薬師寺には行基作とされる薬師如来(秘仏で50年毎に開帳)の他、弘法大師作の金剛力士像、さらには円空作の柿本人麻呂像等があります。

街道は用水跡に沿って道路を渡り松陰高校のグラウンドの横に出ます。そして右折して高校の用地の中に入り、その中で左折、右折し、高校の西側、烏森公園の南の筋に出ます。道は西に100<sup>メートル</sup>ほど行くと左折して住宅地の中に入り、西南に2本



街道は左斜に細い道を



天皇の願いを成就した願成寺

行った角に出ます。そのすぐ先は、角に烏森郵便局のある佐屋路、柳街道の終点です。

\*

昔この角のすぐ西側に茶屋がありました。1686年、ここで西に帰る芭蕉と送ってきた弟子との複雑な、悲しい別れがありました。

麦ぬかに 餅屋の店の 別かな  
弟子の苛兮の句です。

佐屋路を東に200mほど行き左に入ったところに八幡社があります。その本殿の左手前の灯明の柱に「左 なごや」という字が読めます。この下側の柱の部分は、昔佐屋路と柳街道の分かれる地点に立っていたのです。街道の物語も知らず、邪魔になった石の柱は灯明の台として廃物利用されてしまったのです。



佐屋路との交点(右の角)、そのむこうに茶店が

## 4 名古屋城の築城のとき

1608年、清須城が水に弱いとの山下氏勝の意見を入れて、尾張藩の新しい城の検討が始まりました。候補は小牧、那古野、古渡の3ヶ所でしたが、家康の判断で那古野に決まりました。



八幡社の灯明の台にのこる「左 なごや」

翌年1月候補地を下見に訪

れた家康は早速計画をスタートさせました。外様大名を助役させる方法は江戸城と同じです。西国全体に備えた城郭、豊臣方大名を疲弊させようとした工事は非常に大規模になりました。

築城普請の最大の課題は石の確保と運搬です。任命された大名はいっせいに各地に飛びました。この地域だけでは足りずに全国から集められたといいます。運搬は水路で行けるところまで行って、後はコロのようなもので引かざるを得ませんでした。まだ街道も堀川もありません。

海からのルートは熱田の湊が中心になりましたが、実は笈瀬川も使われたというのです。中川区のあるお宅の中に築城のときにこぼれたといわれる石があるといいます。大名の記号が刻んであるのです。そこはちょうど昔の笈瀬川のルートです。もちろん笈瀬川だけではなくあらゆる水路が使われ資材が運ばれたのでしょう。その結果、名古屋城のあの堀と石垣は3月から9月のわずか半年で完成したのです。

柳街道は築城の時に造られたという説があります。今のルートではないにせよ運搬路の跡に西南方向からの道が出来て、柳が植えられ、近道を行く人が歩き出し、柳街道と呼ばれた…築城のロマンを思うとそんな気もするのです。

守りたき 古き家あり 秋の風

〈主な参考文献〉

- ①船橋武志「ぶらっと中村」(1999、B. S.「マイタウン」)
- ②山田秋衛「特別史跡名古屋城」(1961、名古屋城振興協会)